

国際会議から 鉄道に関するヒューマンファクター国際会議

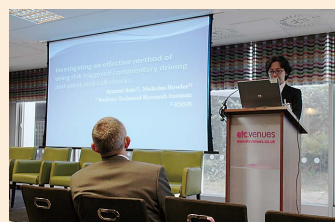
2015年9月14日から9月17日までロンドンで開催された第5回鉄道ヒューマンファクター国際会議で、先取喚呼について発表してきました。先取喚呼とは、英国やオーストラリアで行われている運転士のエラー防止法の1つです。自分の考えていること、運転に重要なことを声に出しながら運転するというもので、失念防止と集中力低下の防止が期待できます。発表は、列車運転シミュレーターを使用してその効果を検証した結果の報告であり、英国の鉄道安全標準化機構 (RSSB) との共同研究の中で行ったものです。

本会議では、主にヨーロッパ諸国からの参加者が多く、新しい移動閉そく信号システムであるERTMS (the

European Rail Traffic Management



RSSB 共同研究者たちと会場で記念撮影 (中央が筆者)



発表風景

佐藤文紀
人間科学研究部
安全心理研究室
副主任研究員

System) に関する発表や、ロンドン地下鉄の運転台デザインに関する発表が印象に残っています。

学会の最終日にはテクニカルツアーがあり、指令センターを見学しました。基本的には日本の指令センターと似ていますが、指差喚呼を使用していないこと、ダイヤ紙を使用していない点が、日本の指令とは異なり印象的でした。

正式名称：The Fifth International Rail Human Factors Conference
 開催国：イギリス(ロンドン)
 期間：2015年9月14日から9月17日
 主催：Rail Safety and Standards Board
 開催頻度：2年に1回
 次回開催予定：2017年(開催地未定)
 ホームページURL：<http://www.rssb.co.uk/railhf2015site>

国際会議から

コンクリート構造物のクリープ・収縮・耐久性に関する国際会議 (CONCREEP)

CONCREEPは1958年から続く、コンクリートおよびコンクリート構造物の収縮・クリープ・耐久性に関する国際会議です。第10回目の今回は、ウィーン工科大学で開催され、欧州をはじめ、北米、アジアなどから研究者が集まり、本分野で著名なBazant教授らによる基調講演12件や、セッション36件(講演187件)の発表が行われました。今回は、コンクリート構造研究室の大野、渡辺が参加しました。

筆者は、乾燥による内部応力を考慮した、コンクリートのひび割れ発生荷重の評価についての発表を行い、質疑では設定した試験条件に関して意見交換を行いました(図1)。渡辺は、実構造物の長期変形を計測するモニタリングシステムについての発表・質疑応答を行いました(図2)。会議では、世界各国の最新の研究状況について発表が行われ、特に収縮・クリープに関しては、現在日本でも議論されて



図2 質疑応答の様子(渡辺)



図3 ウィーン市内を走るトラム

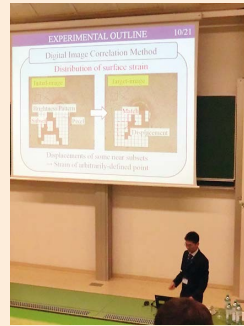


図1 発表の様子(大野)

大野又稔
 構造物技術研究部
 コンクリート構造研究室
 研究員

いる水分の評価に関わる知見が多く発表されました。

ウィーンは、地下鉄、市電、バス、トラムなどの公共交通機関が充実し、さらにそれぞ

れが色や記号で区別されており、初めての観光客でも使いやすく、分かりやすいように工夫されていました(図3)。

正式名称：CONCREEP-10 Mechanics and Physics of Creep, Shrinkage, and Durability of Concrete and Concrete Structures

開催国：オーストリア(ウィーン)

期間：2015/9/21-23

主催：ASCE

開催頻度：4年に1回程度

次回開催予定：アメリカ合衆国 ノースウエスタン大学

ホームページURL：<http://concreep10.conf.tuwien.ac.at/home/>